

# チャレンジ・カーボンニュートラル いなべ

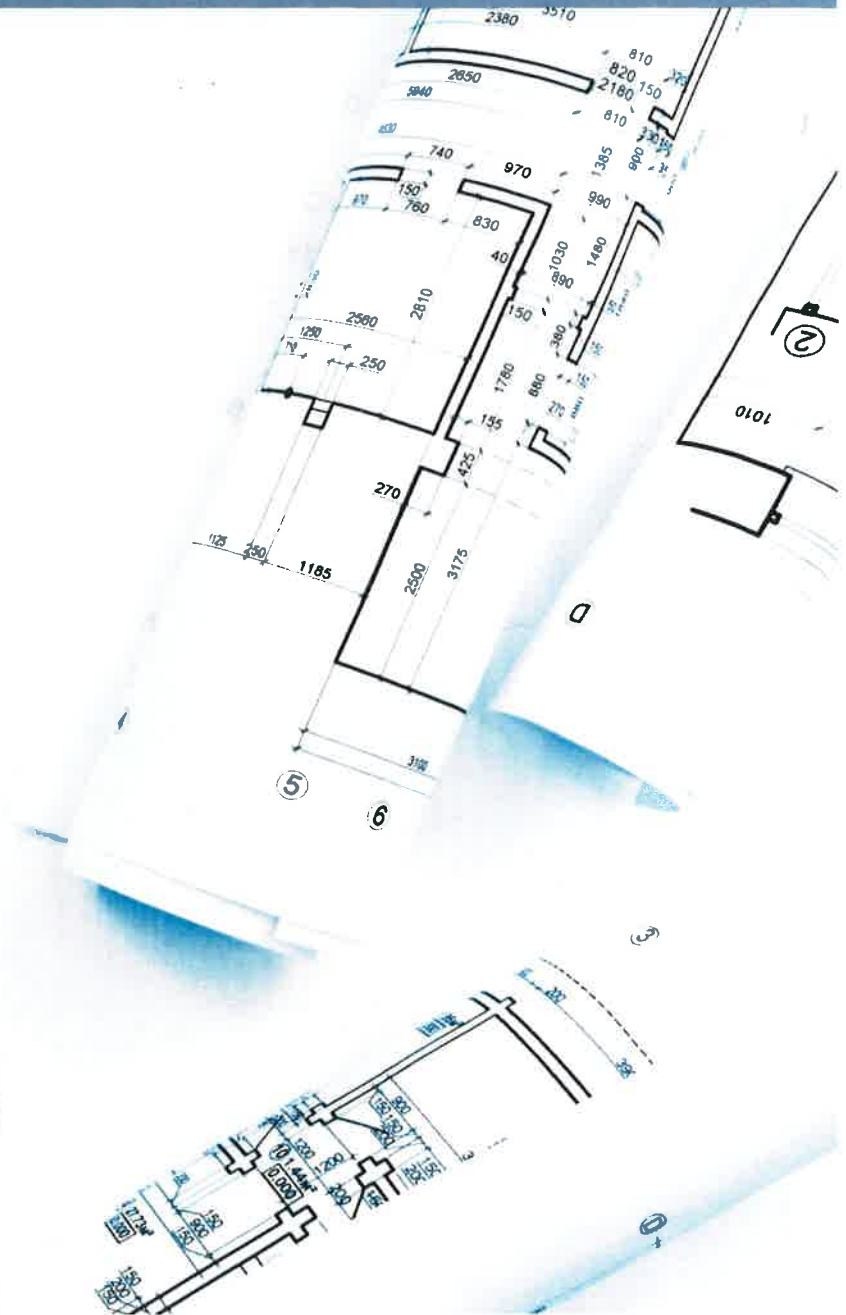
## Challenge Carbon Neutral Inabe 2022~2030~2050



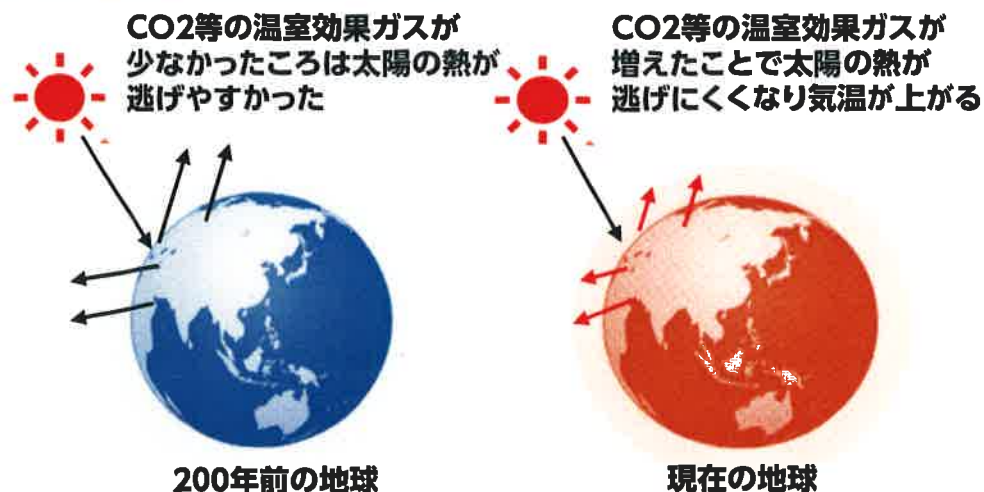
13 気候変動に  
具体的な対策を



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



**地球温暖化が  
様々な異常気象を起こし、  
気候や生態系、食料や経済に  
影響が及んできています。**



日本のCO2排出量は、世界で5番目。  
CO2排出の内訳のほとんどはエネルギー起源です。  
エネルギー起源CO2は、化石燃料の使用によることから、日本は「再生可能エネルギーの最大限の活用」、「高効率・低炭素技術」、「カーボンリサイクル」などのイノベーションを展開し、地球温暖化対策に取り組んでいます。また令和3年6月に、国と地方の協働・共創による地域における2050年脱炭素社会の実現に向けて「脱炭素ロードマップ」が示されました。

いなべ市においても地球温暖化を自分事と捉え、脱炭素社会を目指し、持続可能なまちづくりに取り組めます。

#### 1. 再エネの最大限導入

- ◇公共施設の駐車場・屋上に太陽光発電システム
- ◇荒廃農地・耕作放棄地で太陽光シェアリング
- ◇調整池に太陽光
- ◇個人宅・事業所・集合住宅に太陽光

#### 2. 再エネ効率活用のためのインフラ整備

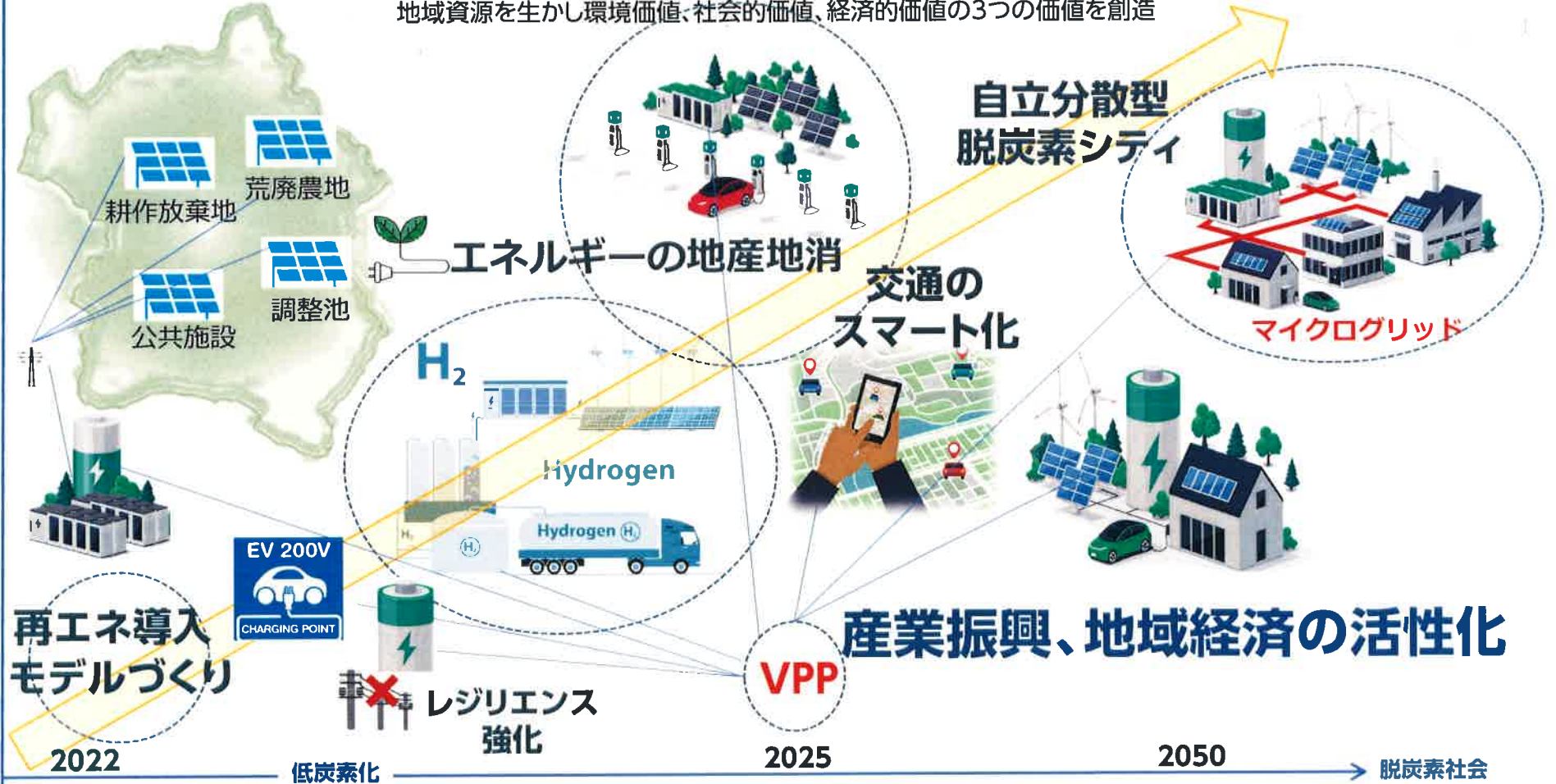
- ◇太陽光・蓄電池を活用したEV、FCステーション構築
- ◇市役所と避難施設と再エネ・蓄電池を自営線で結んだマイクログリッド
- ◇1.で導入した再エネを地産地消するための需給管理
- ◇1.で導入した再エネを平常時・災害時に活用するためのVPP構築



# 持続可能な開発目標の達成に向けたロードマップ

○ 地域再エネを最大限に活用し、低炭素化から脱炭素化へと持続的発展を両立する多様な地域モデル

地域資源を生かし環境価値、社会的価値、経済的価値の3つの価値を創造



**【ステージⅠ】**  
既存技術で実現可能な  
ゼロカーボンを普及

- ・CO2排出量の把握(見える化)
- ・省エネ推進
- ・最大限の再エネ導入検討
- ・水素製造装置導入

**【ステージⅡ】**  
持続可能な脱炭素型  
ライフスタイルに転換

- ・災害発生時の電力確保
- ・EVスタンド整備

**【ステージⅢ】**  
産業界のゼロカーボン社会  
への挑戦を支援

- ・MaaSによる地域活性化
- ・実質再エネ100%
- ・マイクログリッド
- ・VPP(バーチャルパワープラント)

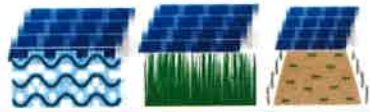
**【ステージⅣ】**  
エネルギー自立地域  
づくりで地域内経済循環

- ・再エネ・水素100%活用
- ・交通の脱炭素化
- ・循環型社会の構築

# 2050カーボンニュートラルの実現イメージ

## 【電気をつくる】

**太陽光発電**  
(PPAモデル/初期費用ゼロ)  
施設の屋根・屋上を利用した  
太陽光発電設備、遊休地や耕  
作放棄地を活用



## 【電気を貯める】

**蓄電設備**  
太陽光で発電した電気を蓄電池に  
貯める貯めた電気は自給自足、  
災害時に非常用電源として活用

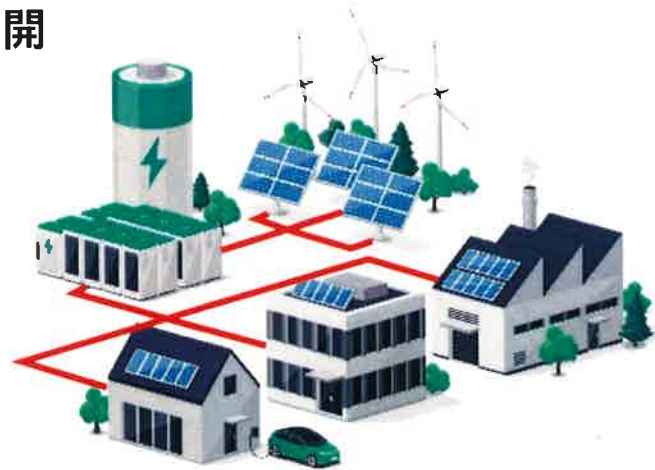


## 【電気を減らす】

**省エネ対策**  
電力需要の大きい施設と中心と  
した省エネ化  
(設備の高効率化)  
・太陽光0円設置活用



地域内の再エネを組み合わせ  
最適に活用し電力供給のリスク分散  
とCO2の排出削減を図る  
分散型エネルギー社会の実現のため  
エネルギーマネジメントシステムに  
よる地域内の電気を「つくる」「貯め  
る」「減らす」を効率的に管理  
災害時は蓄電池、EV・FC車による  
電力供給  
電力の地産地消を進めカーボン  
ニュートラルに向けた取り組みを展  
開



## 【新エネルギーの活用】

**水素ステーション**  
(グリーン水素の生成と活用)  
太陽光発電による余剰電力を水  
素生成用に活用、化石燃料を使用  
しない車両を積極的に導入



## 【スマート交通の実現】

**EVスタンド/カーシェアリング**  
公共・観光施設、駅などにEV充電  
設備を設置しカーシェアリングと  
公共交通機関  
と組み合わせたMaaSの基  
盤づくり



## 【低炭素農業の挑戦】

地域電源としての太陽光発電の  
促進とバイオマス発電  
営農型太陽光発電、IoT農業、  
スマート農業の促進とバイオマ  
スによる熱利用、発電の拡大

